

令和7年度 熊本県 英語教育改善プラン

目標

知識・技能の確実な定着を図り、主体的に英語で自分の気持ちや考えを伝えることができる児童の育成

- 「英語の勉強は好き」と回答した児童の割合 「英語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合（前年度より増加）
○「英語で自己紹介ができる」（「話すこと[発表]」）と回答した児童の割合（前年度より増加）

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①県学力・学習状況調査の結果から、中学年の英語が「好き」の割合は増加傾向
「好き」 (R5 → R6)
小3 (84.1% → 85.6%)
小4 (77.4% → 79.0%)

未だ改善が必要な点

- ①県学力・学習状況調査の結果から、高学年の英語が「好き」「分かる」の割合について改善の余地がある。
「好き」 (R5 → R6)
小5 (68.7% → 68.6%)
小6 (64.4% → 62.9%)
「分かる」 (R5 → R6)
小5 (78.3% → 78.1%)
小6 (78.3% → 75.8%)
②「聞くこと」「話すこと」の定着に向けた指導及び「読むこと」「書くこと」の言語活動の充実に改善の余地がある。

2. 要因分析

- ①英語専科教員の配置拡充により、外国語活動を担当する教員の専門性が向上し、児童が英語を使ってやりとりする場面が増え、コミュニケーションの楽しさを実感できたことが増加の一因と考えられる。

- ① ②授業における言語活動の質や量に学校・地域間の差があり、好事例等に学ぶ機会が不足している。

- ① ②言語活動の充実にに向けたICT機器やALTの効果的な活用に課題がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①①②英語担当者の授業力向上に向けた研修の充実
・「英語授業づくりプロジェクト」
「聞くこと」「話すこと」の定着に向けた指導及び「読むこと」「書くこと」の言語活動の充実を図る授業の具体的なイメージを英語担当教員が持ち、地域ごとの課題（領域等）の解決に焦点を当てた研修を実施
・「わくわくサークル」（オンラインによる研修）
参加者自身の課題解決に向けて、スーパーティーチャーによる実践紹介、参加者同士の実践交流などを実施
①①指導と評価の一体化の実現に向けた取組の更なる充実
・「読むこと」「書くこと」の言語活動に関する好事例の提供
小中連携を視野に入れた「読むこと」「書くこと」の授業実践例を収集し、情報提供を行うことで授業力向上につなげる
■本県における一定の英語力を有する小学校教員の新規採用に係る取組
・小学校教諭等受考者における一定の英語力を有する者への加点制度
・小学校教諭等受考者における青年海外協力隊等勤務経験者及び在外教育施設におけるブレ派遣教師勤務経験者への特別選考制度（考査内容の一部免除制度）
・中学校教諭等受考者に対する小学校教諭等の併願制度
※中学校英語を受考する際、第2希望として小学校を併願することができる

令和7年度 熊本県 英語教育改善プラン

知識・技能の確実な定着を図り、主体的に英語で自分の気持ちや考えを伝えることができる生徒の育成

目標

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：40.5%⇒R7：50%）
- 「英語で自己紹介ができる」（「話すこと[発表]」）と回答した生徒の割合（前年度より増加）

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①英語が「好き」と回答した生徒の割合が増加。
「好き」（R5 ⇒ R6）
中1（57.5% ⇒ 60.8%）
中2（48.3% ⇒ 51.4%）
- ②1年生は「3文以上の英作文を書く」問題において、全国の平均正答率を上回った。
（中1 全国:52.3 熊本県:55.1）

未だ改善が必要な点

- ①「知識・技能」の定着に課題が見られる。
県学力・学習状況調査結果
（中1 全国:65.8 熊本県:57.4）
（中2 全国:62.3 熊本県:52.1）
- ②「読むこと」の領域が全国平均を大きく下回っている。
県学力・学習状況調査結果
（中1 全国:59.8 熊本県:48.6）
（中2 全国:57.0 熊本県:48.1）

2. 要因分析

- ①生徒が英語を用いて聞いたり話したりする言語活動の時間が増加した。
- ②これまで継続して課題のあった「書くこと」について、自己表現をする言語活動の充実が図られた。
- ①言語活動を通して知識・技能の確実な定着を図る授業実践に個人差が見られる。
- ②「読むこと」の言語活動を通して、概要や要点を捉えるなど、「思考・判断・表現」に係る指導が不十分である。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①②英語担当者の授業力向上に向けた研修の充実
 - ・「英語授業づくりプロジェクト」
言語活動を通して知識・技能の確実な定着を図る授業の具体的なイメージを英語担当教員が持ち、地域ごとの課題（領域等）の解決に焦点を当てた研修を実施
 - ・「わくわくサークル」（オンラインによる研修）
参加者自身の課題解決に向けて、スーパーティーチャーによる実践紹介、参加者同士の実践交流などを実施
- ①英語による発信力強化に向けた取組
 - ・「AIの活用による英語教育強化事業」
モデル校において、AI活用を実践し、教師による指導とAIとのベストミックスとなるモデルを構築するとともにその実践を共有
 - ・「英語による発信力強化検証事業」
「話すこと」を重視した授業実践の効果を検証するため、モニタ校において「話すこと」を客観的に評価するスピーキングテストを実施
- ①②指導と評価の一体化の実現に向けた取組の更なる充実
 - ・MEXCBTをはじめとする評価問題の活用
MEXCBTや全学調の問題分析や活用により学習指導要領で求められている資質・能力を育成するための授業改善や評価問題作成等に生かす
 - ・生徒の英語力向上に向けた「セルフチェックシート」の活用
授業改善の視点として特に重要な項目を整理し、英語担当教員に活用を促すとともに、年2回のアンケートを実施

令和 7 年度 熊本県 英語教育改善プラン

目標

英語を使って国内外で活躍し、他者と協働して対話を深めることのできるグローバル人材の育成

- CEFR A2及びB1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6実績：A2以上 42.4%、B1以上16.8% ⇒R7目標：A2以上 52.0%、B1以上 23.0%)
- スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 (R6実績：47.3%⇒R7目標：60.0%)
- 授業における、生徒の英語による言語活動の割合 (R6実績：47.3%⇒R7目標：60.0%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベル及びB1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が増加
(A2:R5:11.6%⇒R6:16.4%)
(B1:R5:4.3%⇒R6:5.6%)
- ②授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が増加
(R5:47.1%⇒R6:47.3%)
- ①授業において、教師が発話の50%以上を英語で行っている学校の割合が減少
(R5:35.3%⇒R6:33.6%)
- ②スピーキングテストとライティングテストを両方実施している学科の割合が減少
(R5:49.5%⇒R6:47.3%)

2. 要因分析

- ①授業における様々な言語活動に対する具体的な評価方法についての研修を重ねて実施したことで、生徒の力が適正に評価されたことが要因と考えられる。
- ②言語活動の充実に向けた研修や学校訪問を実施したことで、授業における生徒の言語活動について改善や工夫がなされつつあることが要因と考えられる。
- ①授業を英語で行う（＝授業を実際のコミュニケーションの場とする）ことの効果の共有が十分図られていなかったことが一因と考えられる。
- ②授業において実施した各技能を適切に評価するためのパフォーマンステストについて、具体的な例示や指導・助言が不十分であったことが一因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②言語活動指導の更なる充実と適切な評価技術の向上

- ・高等学校教育課程熊本県研究協議会
授業での言語活動の充実のため、県研究指定校の教員から言語活動の充実に向けた授業実践の発表・共有を行う。また、小中高を通し一貫した目標を設定するため、本プランを県内県立高等学校で共有する。
- ・熊本県高等学校英語教員指導力向上研修会（年2回）
「話すこと（やり取り）」の言語活動好事例及びその適切な評価方法の共有のため、外部講師を招き、言語活動の実践紹介とその評価（パフォーマンステスト等）に関する講義及びワークショップを実施する。また、小中高を通した学びの実施に向け、小・中学校において実施される評価及び指導内容等を県内県立高等学校で共有する。
- ・学校訪問
生徒の深い学びに繋がる指導と評価の一体化の充実を図るため、県研究指定校及び抽出校（英語実施状況調査の分析を基に抽出）に訪問し、指導・助言を行う。
- ・先進校視察
授業におけるディスカッションを中心とした言語活動促進のため、英語教員が県外の先進校を視察する。

①①生徒の対話力・発信力の推進

- ・生徒向けワークショップ
英語での対話力・交渉力強化のため、県指導教諭等とともに対話型ワークショップ（ディスカッションやディベート）を実施する。
- ・くまもと・モンタナイマージョンプロジェクト（2週間）
生徒の対話力・発信力の強化及び実践のため、州立モンタナ大学併設語学学校へ高校生を派遣し、英語を用いた課題探究型活動等を実施する。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

熊本県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	43.1	48	42.4	52		56		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	15	17.7	20	16.8	23		27		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	47.1	55	47.3	60		65		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	49.5	60	47.3	60		65		70	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	73.1	80		90	95		100	
		達成状況の把握(%)	100	56.7	65		75	85		95	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	93	89.8	90	91.1	92		93		94	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85	35.3	45	33.6	55		65		75	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	46.6	50	40.5	50		57		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	95	78.8	84.3		89.8		95.3		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	97.5	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	85.8	100		100	100		100	
		達成状況の把握(%)	100	98.3	100		100	100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	43	42.6	44.5	44.1	46.4		48.3		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	90	76	82		88		94		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	80	100		100	100		100	
		達成状況の把握(%)	100	96.6	100		100	100		100	